



新 昭和コミュニティセンター

昭和コミュニティセンターが、平成二十六年一月早々、新施設での業務を開始致しました。徳島東部都市計画道路「住吉」

昭和コミュニティセンターが、平成二十六年一月早々、新施設での業務を開始致しました。徳島東部都市計画道路「住吉」

昭和コミュニティ協議会

会長 松岡 勤

昭和コミュニティセンター 堂々の移転新築落成

コミュニティ だより

徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

万代園瀬橋線」に掛かる移転計画が平成十四年に発表され、平成二十一年十一月に富田中学校校庭北に用地が決定されたことに伴い、地元協議会の有志により建設準備委員会を立ち上げ、行政当局・地元・建設業者とのさまざまな諸問題について協議し、常に最善を求めてきました。途中熱意をもって取り組まれてこられた勝川前会長が、志半ばにして病に倒れられ、その意志を平成二十三年十二月より引き継ぎ、このほど無事完成の雄姿を見るに至りました。



コミセンのシンボルマーク

この間、市民協働課の皆さんをはじめ、関係部署の方々とは、本当にお力添えをいただき、このセンターはそうした人たちの力の結集が実を实らせたものと感謝に堪えないわけですが、今一度、その経緯を辿ってみますと、公設・民営の整備方針により、新築を機に什器や備品を調達しようとした元を中心とその費用を募金でお願いすることとしました。平成二十四年十月二十九日安全祈願祭が斎行され、いよいよ大工事が施工されることとなり、近隣の皆さまには多大なご迷惑にも温かいご理解をいただきました。着々と諸工事も進んでいき、真夏の炎天下のもと、募金作業も



安全祈願祭

建設委員会はもとより、地元各町内会長さん方の熱心な取り組みにより、着々と目標額にむけたご努力に、ただただ頭の下がる思いの毎日でした。公募したコミセンのシンボルマークも、昭和地域の地形をデザインした素晴らしい作品が決まりました。達成は非常に難しいのではと思われた募金目標額にも達し、地域の皆さま方のご厚情、ご理解、ご協力の賜と本当に心からものすごいパワーの結集を見た思いで、このコミセンが完成したものと感謝の意を新たにいたします。

新コミセンは児童館も併設され、その利用は増えることが見込まれます。センターの部屋数も増え、何よりも駐車場が広く使いやすさや言ってもありません。また地域防災、津波対策等、さまざまな対応ができるよう考慮されたものとなっております。昭和地区のコミュニティ活動、つまりまちづくり事業・生涯教育人づくり事業の拠点として、また青少年の健全育成や防犯の基地として今後大きな力を発揮できるものと確信し、有効利用に努めていきたいものと考えております。



落成式

結びになりますが、徳島市、建築に携わる関係者の方、そして地域の諸団体の皆さまや近隣の方等々、お世話やご芳志をいただきましたすべての方に、心から御礼を申しあげます。

第23回 徳島市コミュニティまつり

国府コミュニティ協議会

会長 阿部 克己



台風一過、清々しい秋晴れの十月二十七日、コミュニティ活動の振興をめざす第二十三回徳島市コミュニティまつりを、国府小学校体育館をメイン会場として開催しました。今回のまつりは、第四ブロックに所属する不動、北井上、南井上、国府の四つの協議会が運営に当たりました。メイン会場では開会式を行

い、原秀樹徳島市長様等から心温まるご祝辞をいただきました。その後、各コミュニティやまちづくり協議会による踊りや朗読、さらには歌等々の二十五のプログラムが披露されました。厳かな踊りや迫力ある太鼓等、各々が趣向を凝らしたもので、観衆の一人ひとりが夢中になつて観入っていました。

体育館の外ではテントを並



開会式



史跡巡りウォーキング

べ、第四ブロック協議会が用意した花や野菜たこ焼きや餅等の販売をしました。さらには、国府地域の福祉施設や市民協働課のご協力によるうどんなやしいたげや草木染めの作品、ポップコーン、またコーヒーの販売もありました。どのテントにもたくさんの方が列をつくり、昼過ぎには売り切れが続出していったようでした。閉会式終了後、恒

第四ブロック協議会が用意した花や野菜たこ焼きや餅等の販売をしました。さらには、国府地域の福祉施設や市民協働課のご協力によるうどんなやしいたげや草木染めの作品、ポップコーン、またコーヒーの販売もありました。どのテントにもたくさんの方が列をつくり、昼過ぎには売り切れが続出していったようでした。閉会式終了後、恒

例になつてお楽しみ大抽選会を行いました。ブロック長さんの巧みな進行のもと、たくさんの方々が抽選券を手にして集まりました。当選番号が発表されるたびに歓声やため息が交じる賑わいがある抽選会でした。一方、サブ会場の考古資料館を拠点とする会場では、国府町が古代からの歴史と文化の町であることを体感していただくことをねら



模擬店



演芸大会

いととして、遺物の一部である宮谷古墳と矢野古墳を中心としたウォーキングを実施しました。「なるほど、国府はまほろばですね」という感想が嬉しく耳に残っています。このまつりを実施するに当たり、多くの方々にご協力いただきました。特に、不動、北井上、南井上の協議会の皆さん、市民協働課の皆さん、さらに国府地区の関係者の皆さん、またまつりにご参加いただいた各協議会の方々により御礼を申し上げます。

蔵本の大楠の謎

蔵本史跡保存会 会長 小椋 健司

昭和二十年七月二十四日午前十一時頃、B29一機が蔵本町の連隊の兵舎に向けて一トン爆弾を投下した。兵舎の一部とその北の入口の門衛所が一瞬にして木っ端微塵になって吹っ飛んだ。兵士七十余名が爆死し、被害は軍隊だけに留まらなかった。連隊前の多数の民家が爆風の為、大きな損傷を受けた。

当時、連隊の東隣は陸軍病院であり、負傷したり、病気になる将兵が入院していた。目も眩む閃光、天地がひっくり返ったような大きな揺れ。傷病兵の中でも足腰の立つ者は舎外へと飛び出した。何が起きたのかわからないままに。そして、彼らが見た光景は爆弾で破壊された惨状であり、

難を逃れた将兵たちも呆然として立ちすくんでいるばかりであった。

次に負傷兵たちの目に入ったものは病院の入口にある楠だった。彼らは二度、目を見張った。楠の南側の枝に血の滴る肉片、ボロ切れのようになった軍服の切れ切れが七夕の笹の短冊のようにぶら下がっている。傷兵たちの目はその光景に凍りついたまま言葉もなかった。気がつけば地面にも。彼らは思った。もし、弾丸が数メートル東にそれていたら自分たちがこのように散華していたに違いない。彼らは一人、二人と次々全員が楠に向かって「自分たちに代わって散った友に手を合わせた。」

もちろんこのことは一切報道されず、秘密のまま市民に知られることはなかった。戦争末期のこと、片付けには何日もかかったという。その間、楠を見上げては健康な兵も傷兵も手を合わせるようになり、いつしかこの楠自体が信仰の対象となり、戦後、戦争の記念物として残されるようになった。それから一カ月も経たないで日本は連

合国に降伏した。

あれから半世紀以上が過ぎた。かつての兵営跡には近代医療の担い手、徳島大学病院が建ち、陸軍病院は県立中央病院に生まれかわった。

楠は東西に伸びる歩道の真ん中に今もデンと居座り続けている。戦後この道路ができるとき、当時の蔵本の人たちは楠を平和の守り神として切らずに残したのだ。

今では楠の両側の狭い道を文句も言わず人々は通行している。しかし、なぜこんな邪魔な楠を残しているのか今では知る人も少なくなった。

(加茂名まちづくり協議会)



県立中央病院前にある楠

住みやすく潤いのある まちづくりを目指して

川内まちづくり協議会

会長 増金 賢治

川内町は吉野川の下流に位置するデルタ地帯で穀倉地帯です。そして字のとおり今川、榎瀬江湖川、宮島江湖川に囲まれた川の内側にあるという地形となっております。もちろん昔から農業地帯として発展して参りました。現在においても京阪神への野菜類における重要な供給産地と

なっております。一方では今切工業団地、流通センター団地、ブレインズパーク徳島への企業立地等産業開発が進んでおります。町の中心を南北に国道11号線が整備され、また徳島東環状道路が全面開通し、さらに四国横断自動車道が平成二十七年春開通を目標として進捗しております。道路の整備が進むと同時に住宅団地の整備も進んでおります。現在の川内町の人口は約一万七千人でほぼ横ばい状態となっております。地域住民の一番の関心事は「安心・安全」なまちづくりにあります。津波災害警戒区域が県から公表されて以来、特に心配されるのは南海トラフによる巨大地震の発生とそれに伴う大津波の発生ではないでしょうか。何時起きるのか？発生するのか？正確に予測することは誰にもできません。そこで自分たちの身は自分たちで守る気運が高まってきており

ます。

自主防災をまちづくりの基本にすることにより、地区住民のこころを一つにまとめやすくなるのではないのでしょうか。他どの地区にもよく聞かれることですが、町内会への加入率の低下傾向への対策として有効策と考えられます。平成二十七年三月には四国横断自動車道が開通し、川内町内に二カ所の津波避難施設

が完成することとなっております。その時期を目前に津波ハザードマップの作成の推進に努めるとともに、地元から根ざしている伝統文化の振興とあわせ「住みやすいまちづくり」と「潤いのあるまちづくり」に一歩でも二歩でも近づくとともに川内町民会館のリニューアルオープンを機に心新たにしているところで

「しらさぎ会」の紹介

住吉・城東地区町づくり協議会

芝 正裕

平成二十四年、吉野川河口に技術の粋を集め、近代的な美しい橋「阿波しらさぎ大橋」が完成しました。この年、年度当初の町づくり協議会役員会で、いろいろなコミュニティ活動を実施しているがまだ取り残されている分野の活動はない

だろうか、ということが話題になりました。近年、高齢化社会が急速に進み、孤独死とか、認知症や介護の問題、悪徳商法による被害、災害からの避難といったことが深刻な問題になっています。こうした状況に対し、地域社会ももっ



第1回しらさぎ会 (平成24年5月)

と積極的にかかわっていいのではないか、ふれあい食事会や敬老会の行事をみても、七十歳代の出席は多いが八十歳以上の出席は少なく、そうした方々への地域活動の輪を広げようということになりました。まずは、お年寄りに傾向の強い引き籠もりから出てもらうため、老人の会とか高齢者の会といったことばからくる負のイメージをなくするため、この活動を「しらさぎ会」と呼ぶことにしました。地区民生委員のご協力を得て八十歳以上の方に呼びかけ



子どもたちとの交流 (平成 25年 9月)

と、五十名余りの出席者が
ありました。
楽器の演奏を聴く、落語や
マジックを楽しむ、なつかし
い唱歌や童謡を合唱する。各
地の銘茶や名産のお菓子を賞
味する、元気な長寿者の生活
体験に学ぶ、健康や防犯につ
いて専門家の話を聞く、子ど
もやお互いの交流を通じ元氣
をもらう、など。こうした活
動内容を組み合わせ、春・
秋年二回開催することになり
ました。
これまでに四回開催を重ね、
「静岡県掛川の銘茶の香りが
忘れられない」高松の一口ま

多家良中央コミュニティセン
ターは、四月より新しく中津
峰如意輪寺の山田文美さんが
事務管理職員として、月々金
曜日の午前中勤務致しており
ます。

平成25年度 多家良中央コミュニティ 協議会の活動報告



多家良中央コミュニティ協議会

会長 芝原 孝昌

んじゅうがおいしかった」「百
歳に近い方と出会い話しがで
きて嬉しかった」「いろいろな
レクリエーションや子どもと
の対話が楽しかった」などと



ラウンジ風景

当コミュニティセンターも発
足以来十周年を迎え、時代の
流れでしょうか、少子高齢化の
中で少し利用度も低下傾向に
あります。そこで大いにご利用
いただくべく、無料のラウンジ
にカフェを準備し、コーヒー一
杯五十円で飲んでいただける
ようになりました。友人との
ふれあいや井戸端会議に喫茶
室としてぜひご利用ください。
また同室にテレビ(五十イン

参加者からの好評な感想が寄
せられています。
高齢化が進展するなかで、
こうした地域活動がますます
重要になってくると思います。

初夏の頃には、かねてから
児童館より要望のあった駐車
場の増設も隣接の地権者のご
協力を得て三百七十五平方
メートル、約十五台分の駐車場
が完成しました。
十月には、当コミュニティ協議
会の広報誌「東風」を発行し、
各種団体の近況報告などを行
いました。

チ、デジタル)を買換えし、寄
付していただいたDVD、ビデ
オのソフトも揃えて、和洋の名
画も楽しんでもらえるよう設
備の改善を致しました。
初夏の頃には、かねてから
児童館より要望のあった駐車
場の増設も隣接の地権者のご
協力を得て三百七十五平方
メートル、約十五台分の駐車場
が完成しました。



多家良中央コミュニティまつり (芸能祭)

十一月十七日には、恒例の
第十回多家良中央児童館まつ
りが午前中、多家良中央コミュ
ニティまつり(芸能祭)が午後
に、好天のもと盛大に開催さ
れました。地域の写真家の写
真も展示致しました。
芸能祭は、多家良保育所、八
多保育所の歌と踊りに始まり、
宮井小学校のブラスバンド部の
演奏、多芸な出演者のどのど自
慢や踊りで大いに盛り上がり
ました。フィナーレは有名連中
連の阿波踊りを全員で楽しみ
ました。



写真展

シリーズ 名所・旧跡

那波魯堂先生について

佐古コミュニティ協議会

郷土史研究家 三浦 圭介

魯堂先生は姫路で一七二七（享保十二）年に生まれて一七八九（寛政元）年まで活躍された方で、名は師曾、号は魯堂であり、十七歳のとき京都に遊学し、岡龍洲に学び業成つて塾を開いた。

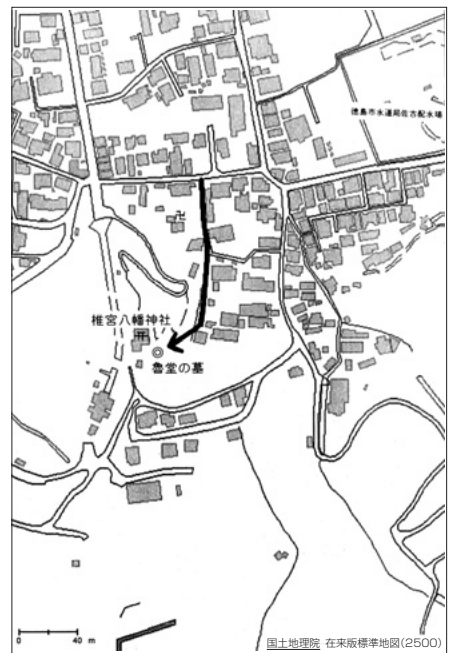
一七七八（安永七）年儒官合田如玉の推挙により阿波藩十代藩主であった重喜公に招かれ儒官となり徳島に来て助任に住んだのち富田裏仲ノ丁



魯堂の墓

（『徳島市の文化財』徳島市教育委員会昭和48年発行より）

（南仲ノ町二）に屋敷を賜つて移つた。その学門は朱子学の正道を伝え、そのため四国の正学と尊称され、その学問思想が後世に与えた影響は大きく大変なものであった。寛政元年九月十一日六十三歳で死去するまで十二年間徳島の阿波藩学問の興隆に貢献した。その著書として公刊されたものに春秋左氏伝集解。学問



魯堂の墓の場所（南佐古七番町付近）
分りにくい場所だが、ブロック塀に囲まれ那波家の表札がある。

源流がある。

一七六四（明和元）年朝鮮からの使者が来日したとき大阪の迎賓館で応対し、さらに江戸まで同行して、道中筆談で互いに唱和するとともに新知識の吸収に努めた。そのときの紀行文をまとめて東遊遍を著した。

朝鮮の使者は魯堂の深い学識を賞讃して日東儒学の第一人者と称したといわれている。著書に「道統問答」等がある。那波家は古く二十三代目が魯堂になるらしい。この魯堂の墓塔の建立者鶴峰（二十五代目）である子孫も学問を志した。

利貞氏（二十七日代）は明治

四十五年徳島市富田裏仲ノ丁（南仲ノ町二丁目）に生まれ住み徳島県立徳島中学校から第三高等学校を経て一九一五（大正四）年京都大学文科（東洋史専攻）卒業、第三高等学校教授から京都大学文学部教授となり一九五三（昭和六十

一）年退官して同大学の名誉教授となる。その他有益な論文を多数発表して魯堂一門那波家の学統を継いだ最後の人であり、ある意味で最後の正統な漢学者であった。

参考文献…河野幸夫氏

編集後記

今月号の「コミュニティだより」は、地域の多彩な活動が紹介されています。

昭和コミュニティセンターの新築落成はさらなるコミセンの発展を象徴するものです。コミセン精神の発露が、住吉・城東地区町づくり協議会の八十歳以上の人びとの集う「しらさぎ会」の発足です。同じく多家長中央コミセンの無料ラウンジの新設です。

川内地区の「住みやすく潤いのある町づくり」をスローガンに、自主防災活動と地域の伝統文化を大切にする活動にも、地域活動の力強さを感じます。「徳島市コミュニティまつり」の大成の陰に、国府等第四ブロック協議の熱気が紹介されました。

蔵本の大楠の謎の紹介は、市民にとってハッと驚く徳島市惨禍の悲惨な歴史を説明してくれました。末永く語り継ぎ守り通していきたいです。那波魯堂・阿波藩の著名な儒学者で、学問の興隆に貢献しました。光を当ててください、現代人の励みになります。

（佐藤義忠 記）